

22. 誰が決めるべきなのでしょう？

「十分な年齢」っていくつのことですか？

テーマ	家庭と代替的ケア、参加
複雑さ	レベル2
年齢層	7～10歳
所要時間	45分
グループサイズ	4～24人
主な学習活動	意思決定、小グループのディスカッション
概要	子どもたちは、それぞれの状況において誰が意思決定すべきかについての質問リストに回答します。それぞれの質問の後で、子どもたちは回答を示すために色分けされたカードを利用します。
目的	・家族内での意思決定プロセスについて考察すること。 ・家族の生活への子どもの参加についてディスカッションをすること ・「発達しつつある能力」の概念を導入すること。
準備	・読み上げるための質問（157頁～158頁）を準備します。 ・それぞれの子どもに1セットずつカードをつくります。
教材	・それぞれの子どもにグリーン、イエロー、オレンジのカード各1枚

指示

1. 子どもたちが着ているものについてじっくり考えてもらい、その日に自分が何を着るかを決めたのは誰だったかについて、隣に座った人と話し合ってもらいます。親だったのでしょうか？ 自分自身だったのでしょうか？ 親と自分で一緒に決めたのでしょうか？ このアクティビティは意思決定に関するものである、と説明します。
2. それぞれの子どもにカードを1セットずつ配ります（グリーン、イエロー、オレンジ）。行われるべき決定のリストを読み上げるので、一つひとつの質問に続いて、誰がその決定をすべきかについて考えてもらいます、と説明します。親がその決定をすべきだ、と考える場合は、グリーンのカードをかざします。子どもが決定すべきだ、と考える場合は、イエローのカードをかざします。子どもと親とが決定すべきだ、と考える場合は、オレンジのカードを掲げます。
3. 一つずつ質問を読み上げ、子どもたち全員がカードをかざすまで待ちます。一つひとつの質問の後、他の人たちがどんなカードを掲げているか、見回すように言います。もしかすると、自分の意見を述べたがる子どもがいるかもしれませんが、この時点ではディスカッションさせないようにし、ディスカッションは報告の時間まで抑えておきます。

報告と評価

1. 次のような質問をして、アクティビティの報告をしてもらいます。
 - a. このアクティビティは気に入りましたか？
 - b. 答えるのが難しい質問がありましたか？ なぜ難しかったのですか？

c. 答えるのがやさしい質問はどれでしたか？ 難しかったのはどれでしたか？ その理由は何ですか？

d. 別な回答をした人がいたのはなぜでしょう？

e. 質問に対する正しい回答や間違った回答はあるのでしょうか？

f. 自分達に関する意思決定をする際に果たすべき役割には、子どもの年齢による違いはあるのでしょうか？ あるとすればなぜでしょう？ ないとすればなぜでしょう？

2. 「発達しつつある能力」という言い回しを紹介し、この言い回しは子どもたちが大きくなるにしたがって個人的なことがらにおいてより多くの意思決定する機会と責任を持つようになることを意味するのだ、と説明します。年長の子どもたちには、特に「子どもの権利条約」の第5条と第14条を引き合いに出して、この概念についてさらに深くディスカッションすることができるでしょう。意思決定における子どもたち自身の役割について、次のような質問をします。

a. あなたは自分の家族内での意思決定に参加していますか？ それはどのような決定ですか？

b. あなたが自分について決定できることがありますか？ それはどのような決定ですか？

c. あなたが意思決定をする時に親からの援助や助言を必要とするようなことがありますか？ それはどのようなことですか。

d. あなたが親からもっと多くの助言を求める方法には、どんなものがあるでしょう？

e. 家族の生活に参加することは、あなたとあなたの親にとって重要なことですか？ 重要だとすれば、なぜでしょう？ 重要ではないとすれば、なぜでしょう？

f. あなたが家族の生活にもっと多く参加することができる方法には、どんなものがあるでしょう？

g. あなたは自分の家族の中で意思決定が行われている方法が気に入っていますか？ 今はあなたは決定に参加していないけれども、これからは参加したいと思っているものがありますか？ 意思決定においてより大きな役割を果たすために、あなたにできると思う方法にはどんなものがあるでしょう？

3. 次のような質問をして、このアクティビティを人権に関連づけます。

a. 人権の中に子どもたちやその家族に関係するものがあるのは、なぜだと思いますか？

b. 子どもたちに関係する意思決定への参加が、あらゆる子どもの人権の一つであるのは、なぜだと思いますか？

c. 子どもたち自身や両親以外で、子どもたちの生活について意思決定するのはどんな人でしょうか？ このことが大切なのは、なぜでしょう？

フォローアップのための提案

- ・ このアクティビティを行う前に、まずは「私たちは家族です」(238 頁)というアクティビティを行うことによって、家族に焦点を当てることから始めてもよいでしょう。
- ・ 「私たちのグループ憲法」(233 頁)というアクティビティも、子どもたちを参加的な意思決定や交渉に関与させるものです。

行動に向けてのアイディア

- ・ 各自に、家族のそれぞれのメンバーがどのように家族生活にさらに参加することができるかについて、

親と一緒に家族独自の方法を考えてもらいます。

- ・ 親を学校に招いて、子どもたちの家族生活への参加に関してどのような意見を持っているか、子どもたちに対して話してもらいます。その際、子どもたちの問題に関する家族の意思決定について子どもたちの役割が、成長・発達につれて変わることも含めて話してもらいます。

ファシリテーターへの助言

- ・ 回答するのが難しいと子どもが感じる質問もあるかもしれませんが、子どもたちが自分の考えに一番近いと思う色のカードや回答を選ぶように後押ししてください。
- ・ あなたが担当しているグループの子どもたちの家族状況について、知るようにしてください。子どもたちの中には、親と一緒に生活していない子どももいるかもしれませんし、後見人と生活している子どももいるかもしれません。そのような場合には、アクティビティに親とともに後見人を含めるのがよいでしょう。
- ・ 子どもたちの中には、自分たちの回答の理由をすぐに説明したいと思うものもいるでしょう。しかし、それぞれの質問ごとにディスカッションを行うことはしないが、後でアクティビティについて話し合う機会を設けることにしている、と話しておきます。
- ・ どのカードがどの回答を表すかを思い出せるように、質問を読み上げる前に、グリーンのカードには親の絵、イエローのカードには子どもの絵、オレンジのカードには子どもと親の絵を、それぞれ描かせておくのもよいでしょう。あるいは、どの色が意思決定をするどの人に対応するかを忘れてしまったときに参照できるように、教室の正面のチャートやボードにカードの色と対応する絵を描いて掲げておくこともできるでしょう。
- ・ **改造**
 - ・ このアクティビティにより長い時間をかけて、より立ち入った考察をする場合には、それぞれの質問の後で、自分達の決定について子どもたちにディスカッションしてもらいます。
 - ・ より年長の子どもたちの場合：個々の質問が「子どもの権利条約」のどの権利に対応するかを見極めてもらいます。
 - ・ より年長の子どもたちの場合：どの人権が、家族生活への子どもたちと親の参加を保護しているかを質問します。そのような人権はなぜ重要なのでしょうか？

読み上げるための質問

あなたの家族が買い物に行くとき、あなたが独りぼっちで家にいることができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

5歳では？

10歳では？

15歳では？

両親が離婚した後で、あなたが父親と母親のどちらとも連絡を取りあうことができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

4 歳では？

9 歳では？

17 歳では？

あなたが兵役につくことができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

6 歳では？

11 歳では？

16 歳では？

雨の中を外出するとき、あなたがレインコートを着るべきかどうか、誰が決定すべきでしょう？

3 歳では？

9 歳では？

14 歳では？

あなたが肉食主義者であるべきかどうか、誰が決定すべきでしょう？

4 歳では？

8 歳では？

13 歳では？

あなたがたばこを吸うことができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

6 歳では？

9 歳では？

15 歳では？

あなたが真夜中まで起きていることができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

5 歳では？

9 歳では？

14 歳では？

あなたが監視なしにインターネットを使うことができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

6 歳では？

10 歳では？

16 歳では？

あなたが自分の宗教を選ぶことができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

5 歳では？

9 歳では？

13 歳では？

あなたが学校へ行くのをやめることができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

6 歳では？

10 歳では？

15 歳では？

あなたが地域の合唱団に参加することができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

5 歳では？

9 歳では？

17 歳では？

あなたが自分自身の携帯電話を持つことができるかどうか、誰が決定すべきでしょう？

4 歳では？

8 歳では？

14 歳では？

あなたが児童養護施設に入れられるべきかどうか、誰が決定すべきでしょう？

4 歳では？

10 歳では？

16 歳では？

ヨーロッパ評議会企画・福田弘訳『コンパシット【羅針盤】子どもを対象とする人権教育総合マニュアル』
財団法人人権教育啓発推進センター、2009 年、154－158 頁。